

但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2639 号）

令和８年 10 月 30 日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター　発行

令和８年漁期　ズワイガニ資源の状況

調査船「たじま」の調査結果などから見た、令和８年漁期の本県沖合底びき網漁船が利用する海域のズワイガニ資源の状況について報告します。

１．推定されたズワイガニ資源の状況

但馬沖漁場（解禁直後）

本県沖合底びき網漁船が解禁直後に利用する但馬沖漁場のオスがに＊1の現存尾数は、前年及び過去５年平均を上回ると推定されました。また、メスがに（クロコ）の現存尾数は、前年及び過去５年平均並みと推定されました。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体のズワイガニ資源量は、オスがに＊2、メスがにともに前年を上回ると推定されました。

２．根拠となった情報

但馬沖漁場（解禁直後）

調査船「たじま」によるズワイガニ漁期前調査（調査月：10 月）

調査船「たじま」により、2026 年 10 月５、６、13～14、15 日に香住沖の水深 200～350m、浜坂沖の 235～240m 及び津居山沖の水深 240～245m に設けた計 12 定点（図１）でトロール網（３ノット、30 分曳き）による試験操業を実施しました。

オスがに＊1は、香住沖の水深 275m及び津居山沖の水深 245mでの入網が中心でした（表１）。入網結果から推定された但馬沖漁場の現存尾数は 7.4 万尾で、前年比 123.3%、過去５年平均比は 118.2%となりました（表２）。

メスがには、香住沖及び浜坂沖の水深 240m での入網が中心でした（表１）。入網結果から推定された但馬沖漁場の現存尾数は 21.3 万尾で、前年比 92.6%、過去５年平均比 99.0%となりました（表２）。

なお、前年度及び今年度調査で入網したズワイガニの甲幅組成は図２、入網したズワイガニのうち、自主規制により漁獲対象となるオスがにの甲幅組成は図３のとおりです。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部調査（調査月：４～６月）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部は、2026 年４月から６月にかけ、日本海 A 海域（富山県以西）に設定した計 135 調査点で、トロール調査による資源量調査を実施しました。その結果、2026 年漁期当初の資源量はオスがに[＊2]が前年を上回ると推定しており（図４）、特に甲幅 120mm 以上の大型個体は昨年に比べ増加傾向としています。メスがにも前年を上回ると推定していますが（図４）、隠岐北方、隠岐周辺及び但馬沖については近年並みとしています。

３．その他の情報

○アカコの現存尾数は、前年を上回ると推定されましたが、前年に続いて低水準で推移しています。11 月はアカコの混獲があった場合、迅速な再放流を行い、次漁期の資源を少しでも残すことに努めてください。（次漁期には、アカコがクロコとして漁獲可能となります。）

○2028 年漁期以降に漁獲対象となる若齢個体（雌雄とも）の現存尾数についても、前年に続いて少ないと推定されました。若齢個体も 11 月は再放流後の生残率が低いため、それらが混獲される海域での操業は控えてください。

○アカガレイの１網当たり平均入網重量は 11.5kg で、前年を下回りました（表１）。

○大型クラゲの入網は昨年同様、わずかしか確認されませんでしたが、引き続きご注意ください（表１）。

以上、解禁初日の漁場選択の参考にしてください。

＊１：甲幅 105mm 以上でハサミが大きいかたがに

＊２：甲幅 90mm 以上でハサミが大きいかたがに

お問い合わせ先：兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター（担当：田村・岸本・大谷）
TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684
HP：http://hyogo-suigi.jp/tajima/

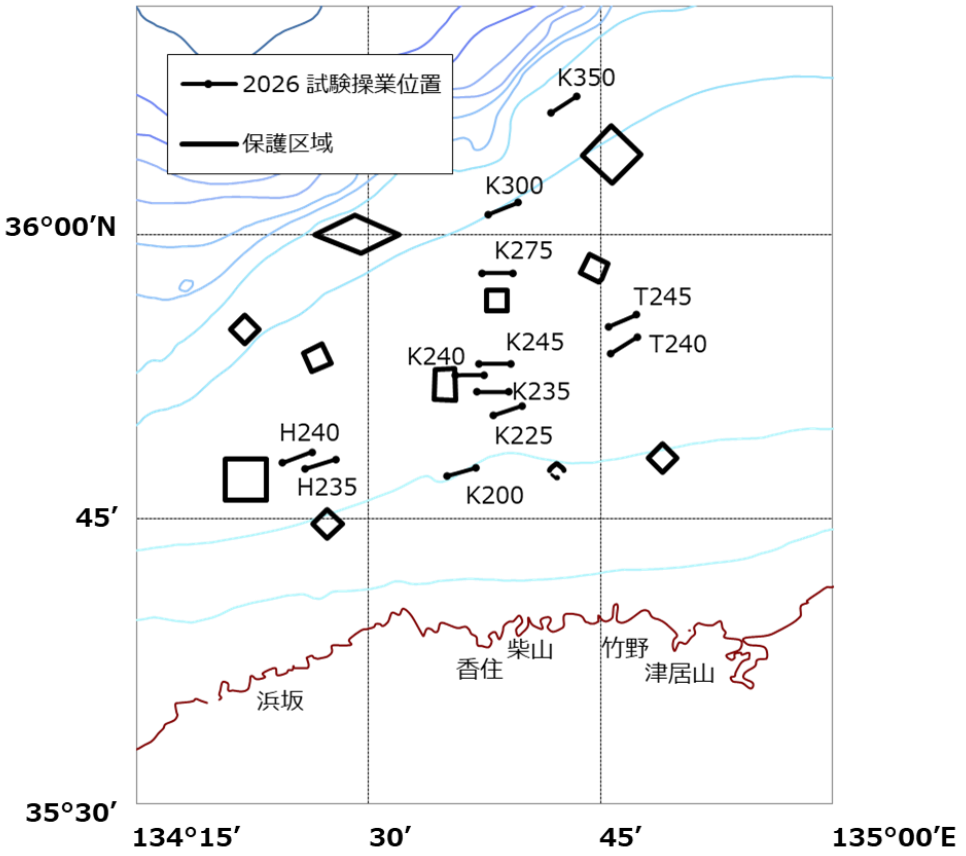


図１　但馬沖調査海域図

表１　漁場別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業地点	曳網水深（m）	ズワイガニ入網数（尾/網）		アカガレイ入網重量（kg/網）	大型クラゲ入網重量（kg/網）
				オスがに	メスがに（クロコ）		
津居山沖	2026/10/6	T245	246 → 243	13	4	20.8	10.1
	〃	T240	239 → 235	7	6	7.3	7.5
香住沖	2026/10/13	K350	347 → 345	1	0	欠測	0.0
	2026/10/14	K300	302 → 301	3	0	7.1	0.0
	〃	K275	278 → 272	11	0	4.4	0.0
	2026/10/13	K245	249 → 243	9	70	13.5	0.0
	〃	K240	244 → 249	5	149	21.8	0.0
	〃	K235	239 → 229	4	21	3.4	0.0
	2026/10/15	K225	224 → 226	3	0	6.9	0.0
	〃	K200	200 → 199	1	0	7.9	0.0
浜坂沖	2026/10/5	H240	240 → 241	7	172	12.3	0.9
	〃	H235	236 → 237	2	65	20.6	0.0

表２　調査海域におけるズワイガニの推定現存尾数（単位：万尾）

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	前年比	過去５年平均	過去５年平均比
オスがに	6.8	7.1	4.9	6.5	6.0	7.4	123.3%	6.3	118.2%
メスがに（クロコ）	35.7	13.5	21.4	14.0	23.0	21.3	92.6%	21.5	99.0%

※採集効率は 1.0 とし、東経 134°20′～134°50′（居組～津居山間）で水深 190～360mの範囲における推定現存尾数

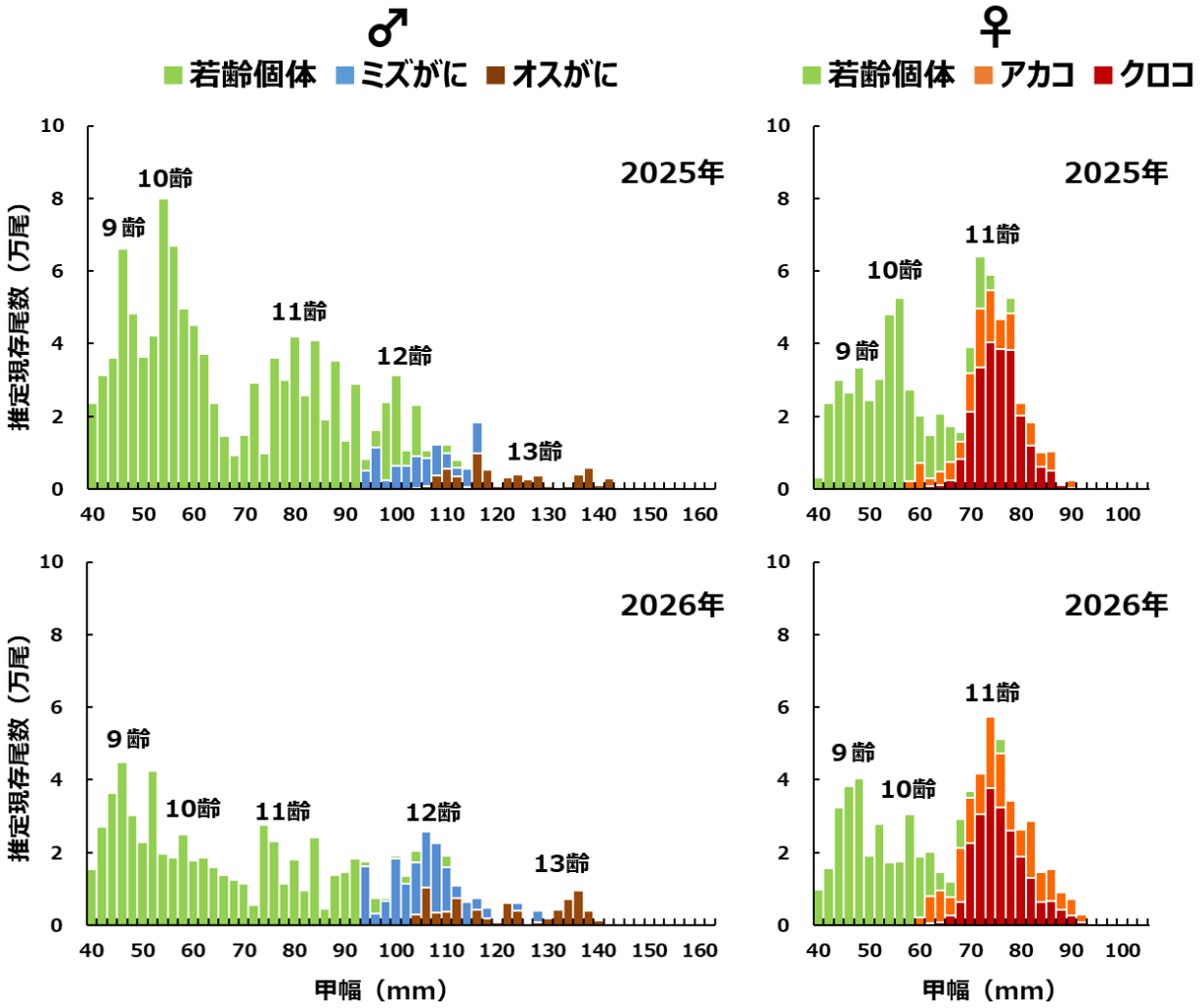


図２　2025、2026 年のズワイガニ漁期前調査結果から得られたズワイガニの甲幅組成（10 月、但馬沖漁場）

※図中のミズがには、来漁期に甲幅 105mm 以上のかたがにとして漁獲可能な個体

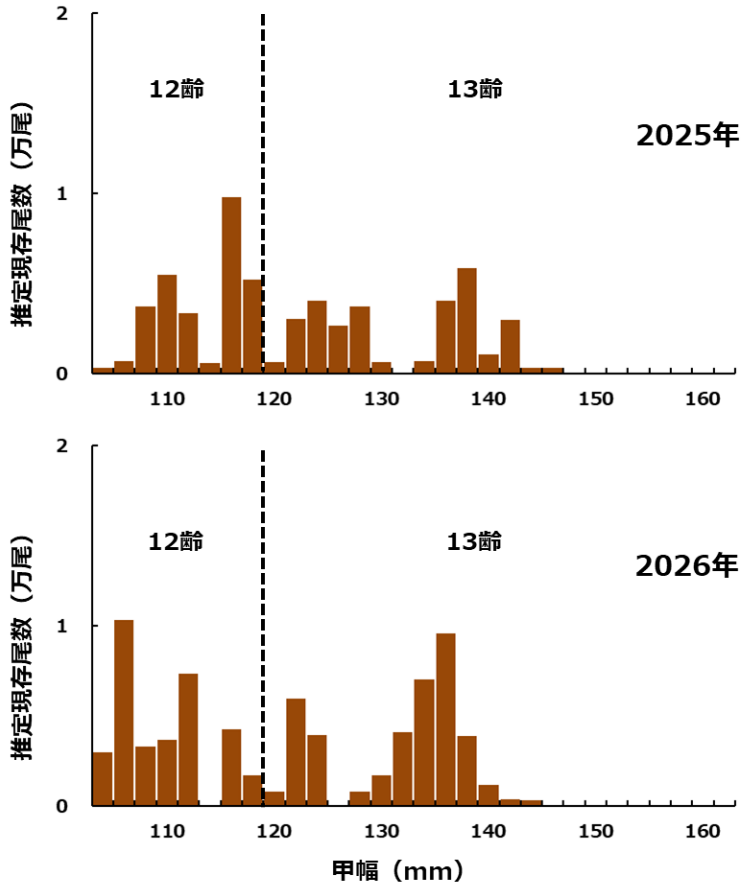


図３　2025、2026 年のズワイガニ漁期前調査結果から得られた
漁獲対象（甲幅 105mm 以上）となるオスがにの甲幅組成（10 月、但馬沖漁場）

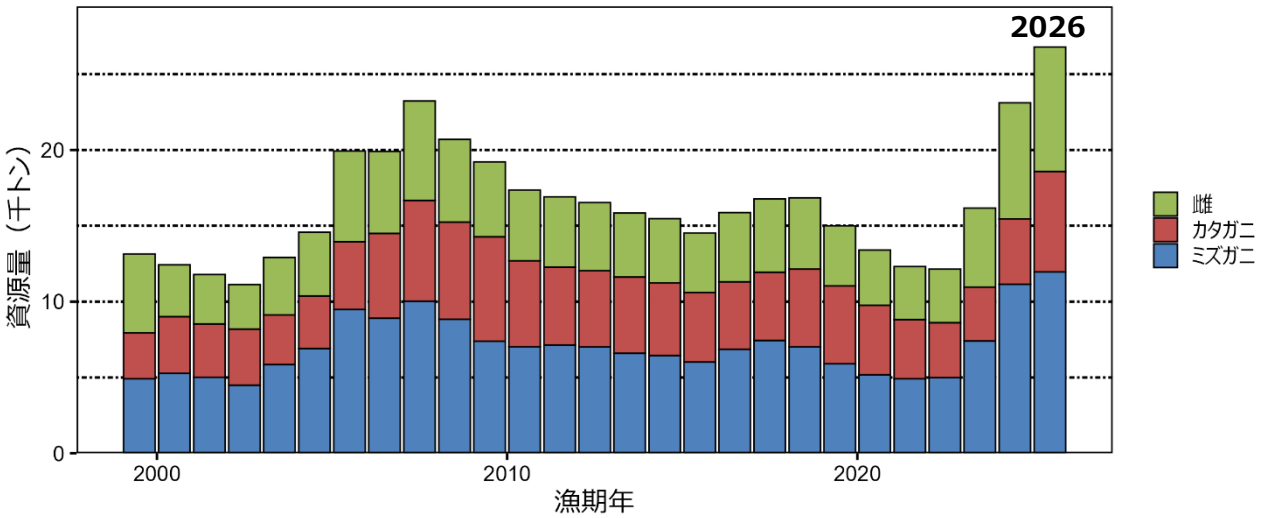


図４　日本海 A 海域（富山県以西）における推定資源量
（水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部 作成資料より）
※図中のミズがには、漁期開始前に脱皮をした 90mm 以上の個体